

中学生の学習の仕方：「個人レベルの学習論 (PLT)」からの接近

梶田正巳 石田勢津子 宇田光¹⁾
伊藤篤¹⁾

問 題

著者らは、先に高校生の学習の方法について研究し、その報告書をまとめた(梶田・石田・宇田, 1984)。ここでは、愛知県下の公立、私立高校を含む高校一年生773人を対象に、ふだんどのような学習(勉強)の仕方をしているか、を40項目の質問で調べた。質問項目は、例えば、「気ののった時にいっきに学習する」A—B「計画にそって一步一步学習する」というような左右対照の対項目(A vs B)である。そして、高校一年生に左右A, Bの二つの意見のどちらかに自分のふだんの学習の様式がより接近しているかを判断させた。判断は、AとBの中間を廃し、Aの側に3水準、Bの側に3水準を設定している。このような対照項目の質問事態は、ある意味では、学習という<価値判断のいる問題解決状況>の単純化されたシミュレーション、と考えることも出来るだろう。

著者らは、このような質問項目で得られた結果を、主因子分析法で分析し、尺度化して、一人ひとりの生徒の応答をプロフィールに表示できるように考案した。こうして子どもの学習の仕方が一つの構造として個別的に捉えられるようになったのである。精度はともあれ、学習様式が個人レベルで表示可能になった。教育実践の立場からみると、こうした生徒のデータは、学習活動の診断情報として、生徒は言うまでもなく教師や教育関係者にも、広く活用される可能性を秘めているように思われる。今後の改善次第で、学習や指導に有効に利用できるのではないだろうか。これが教育実践とのかかわりでまず指摘しておきたい事項である。

もう一つのポイントは、教育心理学の研究に関してで

ある。著者らは、先の研究に直接関係して「個人レベルの学習論(Personal Learning Theory)」(略称をPLT)という学術用語を提案した(梶田・石田・宇田, 1984)。「個人レベルの学習論(PLT)」とは、簡単に言えば、経験によって形成される学習に対する信念(belief)のことである。こうした概念を使うことによって、教育心理学の研究にどんな発展がもたらされるだろうか。具体的には、教授学習理論とこの「個人レベルの学習論(PLT)」とは、どんな違いがあるのだろうか。また、「学習論」があるのであれば、「個人レベルの指導論(Personal Teaching Theory)」(略称をPTT)もあるわけで、両者はどんな関係を有するのだろうか。また、こうした学習や指導に対する<信念>はどのように形成され、発展するのか。人間の所属する社会的集団は、どんな影響力をそこに及ぼすのか。さらには、学習や指導は何も学校教育に限らないので、学校以外の内容に関する「個人レベルの学習論(PLT)」や「個人レベルの指導論(PTT)」はどうだろうか。

少し考えるだけでも、以上のように、いくつもの学問的な問題意識が立ちどころに現れるのである。こうした問題の議論はそれ自体非常に重要であるが、ここでは立ち入らないので、関心のある方は、「授業を支える学習指導論—PLATT—」(金子書房, 1986)を参照してほしい。研究としてパーソナル・セオリーの広大な研究領域が存在することに気づかれるだろう。

以上の2点を触れた上で、本研究では中学生を対象として学習の様式に関する調査を実施する。高校生に比べると、中学生はどのような学習の仕方をしているのだろうか。そのバラエティーを学力と関連づけて調べことにしたい。先に述べた高校生の学習様式に関する研究が学力要因と関係づけずに、PLTをプロフィールに描き、バラエティーを検討した。これはそれなりに重要な意義を有するが、この研究では学力と相関する学習様式に着目し、「個人レベルの学習論(PLT)」のどん

* 本研究のデータ処理は名古屋大学大型計算機センター FACOM M-382 により行われた。

1) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程(後期)

なバラエティーが見られるのかを研究することにしたい。

具体的にいえば、学習の仕方を表現する調査項目の中から、学力要因と相関関係にある項目のみをまず選出する。次に、この学力関連項目に対する生徒の回答を基にして、学習様式のプロフィールを描く。このプロフィールによって、学習様式のバラエティーを考察することになれば、学力と関係する学習様式を捉えることが出来るだろう。

学習意欲は、言うまでもなく；学力の最も重要な規定要因である。そこで、もう一つのねらいは、学習の意欲と学習様式との関係について分析することである。具体的には、学習意欲、すなわち動機づけの高い生徒は、どのような学習の仕方をするのだろうか。また、低い生徒はどのような仕方をするのだろうか。こうした問題を明らかにするため、学習に対する動機の強さを質問紙で調査し、「個人レベルの学習論（PLT）」との相関関係を分析することにしたい。

最後に、学習様式を測定する方法論について述べる。実際は、本研究では、中学生の学習様式を2種類のタイプで調査した。一つは、先行研究と同様の対照項目（A vs B）による質問紙調査である。もう一つは、従来一般的に用いられている対照項目ではない質問紙調査である。例えば、「自分ひとりで勉強する」、「分からないところは、自分で最後まで調べる」、「勉強の計画は、自分ひとりで立てる」、などのような学習に関する項目を90項目作成し、それぞれについて4段階で評定させた。こうした2種類の調査を実施したのは、質問紙調査の様式と測定されたものとの関係を検討するためであった。われわれの始めた対照項目尺度による調査と従来の方法とでは、結果にどんな違いが見られのだろうか。また、測定上、どこに特徴があるのだろうか。こうした問題を整理したかったためである。ただ、この研究報告では、紙数の関係で最後の方法論の検討は次回に譲り、対照項目になっていない後者の質問様式のデータを分析してまとめることにする。

研究の方法

1. 被験者

名古屋市郊外に位置する20万都市、春日井市にある二つの中学校から、1年生、2年生、3年生、合わせて1,025人が被験者となった。その内訳は、表1-1のとおりである。

2. 質問紙の構成と実施期日

質問紙は、付録資料に添付されているので参照されたい。質問項目の様式は、既に述べたように、対照項目で

表1-1 被験者の内訳

	1年	2年	3年	計
男子	188	181	168	537
女子	181	156	151	488
計	369	337	319	1,025

はなく、従来の評定尺度にならった。評定は4段階で、〈いつもしている(1)、時々している(2)、ほとんどしていない(3)、まったくしていない(4)〉。生徒は、もっとも自分に合っている尺度の番号に○印をつける。調査内容は、(1)ふだんの勉強(学習)の仕方と(2)勉強(学習)への意欲(動機づけ)、である。前者の項目数は90、後者のそれは25項目である。調査は、1985年6月から7月にかけて実施された。

3. 学力の指標

本研究では、生徒の学習の仕方と学力との関連を分析する。ここでは学力の指標として学業成績をとることにする。具体的には、英語、数学、国語、理科、社会の5教科の一学期の成績である。これは通知表に1から5の相対評価として記入される。この数値を加算した成績をここでは学校における学習の指標としてもちいる。

結果と考察

分析・考察の視点

90項目のうち、学業成績と相関のある59項目を因子分析し、5次元のPLT尺度を構成した。各尺度を2分割し、パターン分析を行う。次に学業成績や動機づけ別に、特徴的なパターンを分析する。以下この分析の視点に従って①尺度構成 ②PLTのパターン分析 ③学業成績別の分析 ④動機づけ別の分析、の順に結果を示し考察を進めていく。

1. 尺度構成

(1) 学業成績と相関する項目の選択

作成された90項目のうち、5教科の学業成績評定値(5段階)と1教科とでも有意な相関のある59項目を選び出し、因子分析にかけた。因子分析の対象となった59項目の学年別・性別の平均とSDを、表1-2に示す。

(2) 5因子の抽出

主因子法、バリマックス回転の結果5因子を抽出し、そのうち有意な解釈の可能な上位の4因子を採用した。表1-3は、この因子分析の結果を示している。この表では、各因子についての負荷量が.25以上のものを選び、

表1-2 因子分析に用いた59項目の学年別・男女別平均とS D

() 内S D

質 問 項 目	全 体			学 年		性 別		男			女			
	N = 1025	1		2		3		N = 488	N = 537	N = 188	N = 181	N = 168	N = 181	N = 151
		N = 396	N = 337	N = 319	N = 319	N = 188	N = 181							
1 「自分ひとりで勉強する」	1.38 (0.62)	1.28 (0.52)	1.41 (0.66)	1.40 (0.66)	1.38 (0.63)	1.38 (0.63)	1.38 (0.61)	1.32 (0.59)	1.47 (0.65)	1.36 (0.63)	1.23 (0.44)	1.48 (0.67)	1.44 (0.69)	
2 「分らないところは、自分で最後まで調べる」	2.08 (0.63)	1.99 (0.59)	2.11 (0.63)	2.15 (0.67)	2.05 (0.63)	2.11 (0.64)	2.03 (0.59)	2.08 (0.59)	2.08 (0.65)	2.05 (0.64)	1.94 (0.59)	2.15 (0.61)	2.27 (0.68)	
3 「勉強の計画は、自分ひとりで立てる」	1.81 (0.97)	1.77 (0.96)	1.86 (1.00)	1.80 (0.95)	1.85 (0.99)	1.76 (0.95)	1.91 (1.01)	1.88 (1.01)	1.88 (1.01)	1.76 (0.95)	1.61 (0.87)	1.83 (1.01)	1.85 (0.95)	
4 「テストの間違いは、きちんとあとで直しておく」	2.06 (0.86)	1.80 (0.81)	2.14 (0.87)	2.27 (0.84)	2.07 (0.89)	2.04 (0.83)	1.91 (0.90)	2.11 (0.89)	2.11 (0.89)	2.22 (0.85)	1.69 (0.69)	2.17 (0.86)	2.32 (0.82)	
5 「自分のペース (調子) で勉強する」	1.48 (0.73)	1.34 (0.65)	1.56 (0.76)	1.55 (0.76)	1.55 (0.78)	1.40 (0.77)	1.64 (0.84)	1.64 (0.84)	1.64 (0.84)	1.53 (0.74)	1.20 (0.45)	1.46 (0.66)	1.58 (0.79)	
6 「勉強は、きりがつづくまで必ずする」	1.87 (0.79)	1.62 (0.70)	1.99 (0.84)	2.02 (0.79)	1.84 (0.82)	1.89 (0.76)	1.67 (0.78)	1.67 (0.78)	1.96 (0.87)	1.91 (0.79)	1.57 (0.60)	2.01 (0.79)	2.14 (0.78)	
8 「他の人のことはかまわず、自分ひとりで勉強する」	2.11 (0.80)	2.06 (0.74)	2.20 (0.81)	2.05 (0.84)	2.10 (0.80)	2.11 (0.80)	2.09 (0.72)	2.19 (0.82)	2.19 (0.82)	2.01 (0.85)	2.03 (0.76)	2.22 (0.80)	2.09 (0.83)	
9 「好きな先生の科目は、特にいっしょうけんめい勉強する」	2.40 (1.03)	2.42 (1.04)	2.28 (1.04)	2.51 (0.97)	2.35 (1.04)	2.46 (1.01)	2.44 (1.08)	2.44 (1.08)	2.19 (1.06)	2.43 (0.97)	2.40 (1.01)	2.38 (1.03)	2.60 (0.98)	
10 「勉強は、やったその時間で区切りをつける」	2.34 (0.93)	2.41 (0.99)	2.23 (0.88)	2.37 (0.90)	2.38 (0.95)	2.30 (0.91)	2.50 (1.02)	2.50 (1.02)	2.31 (0.92)	2.33 (0.91)	2.33 (0.95)	2.14 (0.84)	2.42 (0.90)	
13 「時と場合により、勉強の仕方をじゃうなんに変える」	2.31 (0.87)	2.16 (0.84)	2.38 (0.91)	2.41 (0.85)	2.30 (0.90)	2.32 (0.84)	2.19 (0.90)	2.41 (0.92)	2.41 (0.92)	2.30 (0.87)	2.13 (0.87)	2.34 (0.90)	2.53 (0.81)	
14 「友だちと競争して、勉強する」	2.74 (1.01)	2.72 (0.99)	2.87 (1.03)	2.63 (0.98)	2.62 (1.06)	2.87 (0.93)	2.68 (1.05)	2.81 (1.09)	2.81 (1.09)	2.36 (0.99)	2.77 (0.93)	2.94 (0.95)	2.93 (0.90)	
15 「ならったことは、すぐ使えるよう暗記する」	2.50 (0.81)	2.27 (0.80)	2.63 (0.81)	2.62 (0.76)	2.44 (0.83)	2.56 (0.78)	2.28 (0.83)	2.55 (0.85)	2.49 (0.77)	2.49 (0.77)	2.25 (0.76)	2.73 (0.76)	2.75 (0.71)	
17 「むずかしい問題は思い出して忘れないようにする」	2.08 (0.84)	1.79 (0.75)	2.23 (0.89)	2.27 (0.79)	2.05 (0.85)	2.11 (0.83)	1.86 (0.81)	1.86 (0.81)	2.21 (0.91)	2.10 (0.77)	1.71 (0.67)	2.25 (0.87)	2.45 (0.77)	
18 「いつもささきの見通しをもって、勉強する」	2.32 (0.79)	2.08 (0.77)	2.44 (0.77)	2.47 (0.78)	2.26 (0.78)	2.39 (0.80)	2.09 (0.78)	2.36 (0.78)	2.36 (0.78)	2.35 (0.76)	2.08 (0.76)	2.54 (0.75)	2.61 (0.78)	
19 「テストでは、その直前にまとめて勉強する」	2.00 (0.89)	2.27 (0.92)	1.88 (0.88)	1.81 (0.81)	2.05 (0.94)	1.94 (0.84)	2.29 (0.94)	1.98 (0.94)	1.98 (0.94)	1.85 (0.86)	2.24 (0.89)	1.76 (0.78)	1.77 (0.75)	
20 「勉強の計画は、表や図に書き表すようにする」	2.73 (1.08)	2.63 (1.10)	2.82 (1.07)	2.75 (1.07)	2.75 (1.10)	2.71 (1.06)	2.67 (1.13)	2.81 (1.09)	2.81 (1.09)	2.78 (1.08)	2.59 (1.07)	2.82 (1.05)	2.73 (1.06)	
21 「分かっていることでも、まんべんなく反復練習する」	2.38 (0.84)	2.30 (0.81)	2.47 (0.85)	2.38 (0.85)	2.39 (0.86)	2.37 (0.81)	2.41 (0.87)	2.43 (0.83)	2.43 (0.83)	2.31 (0.88)	2.20 (0.73)	2.20 (0.73)	2.46 (0.80)	
22 「できなかったところはそのままにしておくかない」	2.03 (0.85)	1.83 (0.88)	2.10 (0.83)	2.19 (0.81)	2.01 (0.86)	2.05 (0.85)	1.85 (0.87)	2.02 (0.82)	2.02 (0.82)	2.18 (0.85)	1.81 (0.88)	1.81 (0.88)	2.19 (0.77)	
23 「音楽などをかけながら、勉強する」	2.71 (1.11)	2.95 (1.09)	2.61 (1.11)	2.55 (1.08)	2.81 (1.12)	2.61 (1.08)	3.07 (1.06)	2.76 (1.16)	2.76 (1.16)	2.57 (1.09)	2.82 (1.11)	2.82 (1.11)	2.52 (1.07)	
24 「本 (教科書や参考書) の内容は、まとめ直さないでそのままおぼえる」	2.53 (0.93)	2.60 (0.95)	2.51 (0.92)	2.47 (0.92)	2.51 (0.95)	2.56 (0.91)	2.59 (0.98)	2.51 (0.93)	2.51 (0.93)	2.43 (0.93)	2.62 (0.91)	2.62 (0.91)	2.53 (0.92)	
26 「たたくさんの問題や例題をやり、十分になれる」	2.25 (0.81)	2.13 (0.78)	2.42 (0.82)	2.20 (0.79)	2.22 (0.82)	2.28 (0.79)	2.16 (0.79)	2.42 (0.82)	2.42 (0.82)	2.07 (0.80)	2.10 (0.77)	2.10 (0.77)	2.35 (0.76)	
27 「わからない所は、そのつど調べ確実に勉強する」	2.20 (0.80)	2.00 (0.79)	2.30 (0.77)	2.33 (0.79)	2.17 (0.82)	2.24 (0.78)	2.06 (0.84)	2.06 (0.84)	2.27 (0.81)	2.18 (0.79)	1.94 (0.75)	1.94 (0.75)	2.49 (0.76)	
29 「予習を中心に勉強する」	2.84 (0.84)	2.80 (0.85)	2.87 (0.83)	2.84 (0.83)	2.83 (0.85)	2.84 (0.83)	2.86 (0.86)	2.86 (0.86)	2.82 (0.84)	2.82 (0.85)	2.74 (0.84)	2.74 (0.84)	2.87 (0.81)	
30 「好きなところ、とくいなところから勉強する」	2.08 (0.92)	2.17 (0.92)	1.98 (0.92)	2.09 (0.93)	2.15 (0.95)	2.01 (0.89)	2.28 (0.95)	2.10 (0.99)	2.10 (0.99)	2.05 (0.89)	2.06 (0.87)	2.06 (0.87)	2.13 (0.96)	
32 「勉強のあいまいな気分転換の休みや活動を入れる」	1.42 (0.66)	1.48 (0.71)	1.35 (0.60)	1.44 (0.65)	1.42 (0.65)	1.43 (0.67)	1.48 (0.70)	1.36 (0.61)	1.36 (0.61)	1.41 (0.62)	1.48 (0.72)	1.48 (0.72)	1.48 (0.67)	
33 「書いた、手を動かしたりして勉強する」	1.47 (0.71)	1.41 (0.67)	1.55 (0.78)	1.46 (0.68)	1.54 (0.77)	1.40 (0.64)	1.48 (0.74)	1.66 (0.85)	1.66 (0.85)	1.48 (0.70)	1.34 (0.59)	1.34 (0.59)	1.44 (0.65)	
36 「分らないところ、重要なところから勉強する」	2.03 (0.85)	1.91 (0.83)	2.05 (0.85)	2.16 (0.87)	1.99 (0.86)	2.08 (0.84)	1.92 (0.88)	1.97 (0.86)	1.97 (0.86)	2.08 (0.84)	1.90 (0.79)	1.90 (0.79)	2.25 (0.89)	
37 「問題のむずかしい時は、あきらめないでねばりよく考える」	2.15 (0.85)	1.94 (0.81)	2.26 (0.87)	2.26 (0.82)	2.07 (0.85)	2.23 (0.83)	1.91 (0.84)	2.20 (0.87)	2.20 (0.87)	2.11 (0.83)	1.97 (0.78)	1.97 (0.78)	2.44 (0.79)	

中学生の学習の仕方：「個人レベルの学習論（PLT）」からの接近

39 「かならず勉強の計画を立てる」	2.71(0.95)	2.59(0.96)	2.82(0.93)	2.73(0.96)	2.72(0.98)	2.71(0.92)	2.60(1.02)	2.77(0.98)	2.79(0.94)	2.59(0.89)	2.59(0.89)	2.68(0.98)
40 「勉強のあと、どこまで分かってるか、自分でテストをし、ためてみる」	2.35(0.98)	2.24(0.96)	2.43(1.02)	2.40(0.94)	2.32(1.00)	2.38(0.95)	2.29(1.00)	2.37(1.00)	2.32(0.95)	2.19(0.92)	2.19(0.92)	2.49(0.93)
43 「好きな科目から、勉強する」	2.06(0.97)	2.21(0.98)	2.00(0.98)	2.07(0.96)	2.13(1.01)	1.99(0.93)	2.18(1.02)	2.10(1.05)	2.11(0.95)	2.06(0.94)	2.06(0.94)	2.02(0.96)
46 「立てた計画は、かならず守って、勉強する」	2.76(0.85)	2.57(0.87)	2.84(0.85)	2.91(0.79)	2.75(0.87)	2.78(0.82)	2.59(0.89)	2.75(0.88)	2.93(0.81)	2.55(0.85)	2.55(0.85)	2.88(0.76)
47 「家庭教師についていたり、塾に通ったりして勉強する」	2.66(1.26)	2.82(1.23)	2.57(1.24)	2.57(1.31)	2.57(1.24)	2.76(1.28)	2.73(1.21)	2.49(1.19)	2.48(1.32)	2.91(1.24)	2.91(1.24)	2.66(1.30)
48 「分らないところは、先生や友だちにたずねる」	2.00(0.81)	1.99(0.80)	2.05(0.87)	1.96(0.73)	2.06(0.85)	1.94(0.75)	2.13(0.86)	2.15(0.91)	1.88(0.74)	1.85(0.72)	1.85(0.72)	2.05(0.72)
49 「特に分らないことを、重点的に勉強する」	1.89(0.78)	1.73(0.75)	1.97(0.81)	1.98(0.78)	1.84(0.78)	1.94(0.78)	1.79(0.81)	1.92(0.82)	1.82(0.71)	1.68(0.67)	1.68(0.67)	2.17(0.80)
50 「勉強の計画は、先生や友だちの意見を参考に立てる」	2.65(0.94)	2.51(0.93)	2.73(0.97)	2.73(0.92)	2.67(0.92)	2.63(0.97)	2.63(0.98)	2.73(0.97)	2.66(0.92)	2.39(0.96)	2.39(0.96)	2.81(0.91)
52 「友だちと共同して、勉強する」	2.91(0.84)	2.97(0.83)	2.83(0.86)	2.92(0.83)	2.94(0.84)	2.87(0.83)	3.01(0.82)	2.88(0.86)	2.92(0.86)	2.93(0.84)	2.93(0.84)	2.91(0.80)
53 「先生の好き、きらいにかかわらず、どの科目も同じように勉強する」	2.06(0.91)	1.78(0.83)	2.30(0.90)	2.13(0.91)	2.03(0.91)	2.09(0.90)	1.80(0.86)	2.26(0.92)	2.05(0.90)	1.97(0.81)	1.97(0.81)	2.22(0.92)
54 「勉強は、やった内容（進度）で区切りをつける」	1.92(0.82)	1.78(0.76)	1.98(0.82)	2.01(0.87)	1.95(0.86)	1.88(0.78)	1.89(0.81)	1.99(0.89)	1.98(0.87)	1.67(0.69)	1.67(0.69)	2.04(0.87)
55 「勉強の計画は、おおむねだけを立てる」	2.29(0.94)	2.19(0.93)	2.39(0.95)	2.30(0.93)	2.33(0.95)	2.25(0.92)	2.24(0.96)	2.50(0.94)	2.24(0.91)	2.15(0.89)	2.15(0.89)	2.36(0.94)
57 「これからの勉強の見通しより、いま必要な勉強をする」	1.99(0.83)	1.88(0.82)	2.10(0.84)	2.01(0.81)	2.04(0.86)	1.93(0.79)	1.97(0.87)	2.15(0.86)	2.02(0.83)	1.78(0.74)	1.78(0.74)	1.99(0.78)
58 「他の人をも意識して勉強する」	2.61(0.94)	2.58(0.93)	2.67(0.97)	2.56(0.91)	2.51(0.95)	2.71(0.91)	2.43(0.94)	2.60(0.99)	2.49(0.89)	2.73(0.89)	2.73(0.89)	2.64(0.92)
59 「テストの時などに、勉強の計画を立てる」	2.09(0.94)	2.00(0.99)	2.10(1.01)	2.19(1.01)	2.13(1.02)	2.05(0.99)	2.05(1.04)	2.13(1.01)	2.23(1.01)	1.96(0.94)	1.96(0.94)	2.14(1.02)
64 「気を散らさないように、おちついて勉強する」	2.08(0.87)	1.92(0.88)	2.22(0.86)	2.13(0.85)	2.10(0.87)	2.06(0.88)	2.01(0.90)	2.22(0.89)	2.08(0.80)	1.83(0.86)	1.83(0.86)	2.17(0.90)
65 「初めに一般的な公式を理解し、後から実例や問題にあたる」	2.03(0.93)	2.01(0.91)	2.20(0.98)	1.89(0.88)	2.08(0.94)	1.99(0.92)	2.11(0.94)	2.24(1.00)	1.86(0.83)	1.91(0.87)	1.91(0.87)	1.93(0.93)
67 「嫌いな科目から、勉強する」	2.73(0.97)	2.59(0.98)	2.88(0.95)	2.75(0.95)	2.68(0.97)	2.79(0.96)	2.58(1.04)	2.77(0.98)	2.71(0.88)	2.60(0.91)	2.60(0.91)	2.80(1.03)
68 「勉強をはじめたら、つづけて集中的に行う」	2.19(0.87)	2.04(0.84)	2.33(0.85)	2.22(0.89)	2.20(0.85)	2.19(0.89)	2.10(0.86)	2.29(0.83)	2.20(0.85)	1.98(0.82)	1.98(0.82)	2.25(0.94)
69 「テストの間速いを直すより、次の勉強をする」	2.61(0.84)	2.71(0.84)	2.55(0.86)	2.56(0.82)	2.63(0.86)	2.59(0.83)	2.76(0.83)	2.59(0.85)	2.53(0.89)	2.65(0.85)	2.65(0.85)	2.59(0.75)
71 「いつも決めた場所で、勉強する」	1.78(0.91)	1.73(0.91)	1.79(0.92)	1.83(0.91)	1.85(0.94)	1.72(0.88)	1.83(0.95)	1.84(0.92)	1.87(0.95)	1.64(0.87)	1.64(0.87)	1.79(0.85)
72 「静かに集中して、勉強する」	2.00(0.85)	1.85(0.83)	2.15(0.88)	2.03(0.81)	1.99(0.87)	2.02(0.83)	1.87(0.87)	2.11(0.93)	1.98(0.78)	1.82(0.78)	1.82(0.78)	2.08(0.85)
76 「復習を中心に勉強する」	1.96(0.91)	1.85(0.90)	2.04(0.94)	2.00(0.87)	2.03(0.95)	1.89(0.85)	1.97(0.97)	2.12(0.98)	2.01(0.90)	1.73(0.81)	1.73(0.81)	1.99(0.84)
77 「勉強の範囲ははじめから順に勉強する」	1.82(0.84)	1.75(0.80)	1.87(0.89)	1.83(0.83)	1.86(0.86)	1.77(0.82)	1.80(0.82)	1.93(0.90)	1.86(0.86)	1.71(0.78)	1.71(0.78)	1.80(0.80)
78 「言葉などはかけず集中して勉強する」	2.18(1.03)	2.03(1.04)	2.30(1.03)	2.21(1.00)	2.16(1.00)	2.19(0.99)	1.98(1.09)	2.28(1.07)	2.25(1.01)	2.09(0.98)	2.09(0.98)	2.16(0.99)
79 「本の内容は、もう一度自分でまとめ直してからおはえる」	2.12(0.89)	2.09(0.87)	2.10(0.87)	2.18(0.92)	2.20(0.91)	2.03(0.85)	2.21(0.92)	2.15(0.91)	2.26(0.91)	1.96(0.81)	1.96(0.81)	2.09(0.93)
82 「基本的な問題や事項を徹底的に理解する」	2.09(0.80)	1.93(0.79)	2.21(0.80)	2.16(0.79)	2.08(0.80)	2.10(0.80)	2.04(0.84)	2.15(0.82)	2.05(0.75)	1.82(0.73)	1.82(0.73)	2.27(0.82)
83 「早く全体をつかむため、分らないところは後から勉強する」	2.51(0.86)	2.43(0.94)	2.57(0.81)	2.55(0.80)	2.55(0.87)	2.48(0.85)	2.50(0.98)	2.60(0.81)	2.55(0.78)	2.36(0.89)	2.36(0.89)	2.55(0.83)
87 「大切な要点はノートにまとめる」	1.96(0.92)	1.91(0.89)	1.95(0.96)	2.03(0.91)	2.09(0.99)	1.82(0.82)	2.08(0.96)	2.01(1.02)	2.17(0.98)	1.73(0.77)	1.73(0.77)	1.86(0.80)
88 「定めた範囲を初めから順に勉強する」	1.90(0.84)	1.90(0.82)	1.93(0.84)	1.88(0.86)	1.95(0.87)	1.85(0.80)	1.99(0.86)	1.92(0.88)	1.94(0.88)	1.81(0.77)	1.81(0.77)	1.81(0.84)
89 「教科書や参考書をそのまま使って勉強する」	2.23(0.89)	2.23(0.87)	2.23(0.89)	2.21(0.90)	2.23(0.89)	2.22(0.88)	2.20(0.86)	2.26(0.92)	2.23(0.90)	2.27(0.89)	2.27(0.89)	2.18(0.89)

表1-3 PLT尺度59項目の因子分析表 (N=845)

項目番号	項目	I	II	III	IV	V	h ²
49	特に分からないことを、重点的に勉強する	65	10	-15	02	18	49
82	基本的な問題や事項を徹底的に理解する	61	11	-03	09	15	41
27	わからない所は、そのつど調べ確実に勉強する	59	11	-20	07	21	45
26	たくさん問題や例題をやり、十分になれる	59	16	-06	03	21	42
17	むずかしい問題は思い出して忘れないようにする	59	06	-14	07	22	42
6	勉強は、きりがつくまで必ずする	57	06	02	08	13	36
37	問題がむずかしいときは、あきらめないでねばりつよく考える	56	10	-15	08	18	39
2	わからないところは、自分で最後まで調べる	56	08	-04	04	15	34
5	自分のペース(調子)で勉強する	56	15	13	-01	0	35
54	勉強は、やった内容(進度)で区切りをつける	52	21	13	01	04	33
64	気を散らさないように、おちついて勉強する	51	09	03	36	01	40
76	復習を中心に勉強する	50	21	09	06	-02	30
77	勉強の範囲ははじめから順に勉強する	50	14	14	07	0	29
36	分からないところ、重要なところから勉強する	50	10	-18	-15	14	31
1	自分ひとりで勉強する	49	18	14	06	-04	30
18	いつもさきの見通しをもって、勉強する	47	23	-11	11	20	34
68	勉強をはじめたら、つづけて集中的に行う	47	05	07	20	05	27
88	定めた範囲を初めから順に勉強する	46	17	11	11	0	27
4	テストの間違いは、きちんとあとで直しておく	46	08	-18	09	23	31
21	分かっていることでもまんべんなく反復練習する	45	21	01	13	19	30
53	先生の好き、きらいにかかわらずどの科目も同じように勉強する	45	14	-04	07	-06	24
15	ならったことは、すぐ使えるよう暗記する	44	15	-15	06	27	32
79	本の内容は、もう一度自分でまとめ直してからおぼえる	43	14	-01	17	17	27
65	初めに一般的な公式を理解し、後から実例や問題にあたる	43	10	09	04	02	21
22	できなかったところはそのままにしておかない	42	08	-07	0	12	20
87	大切な要点はノートにまとめる	42	16	02	13	13	23
33	書いたり、手を動かしたりして勉強する	40	06	16	03	06	19
57	これからの勉強の見通しより、いま必要な勉強をする	40	13	18	04	01	21
40	勉強のあとどこまでわかっているか自分でテストをし、ためしてみる	39	14	0	06	23	22
48	分からないところは、先生や友だちにたずねる	36	08	0	03	24	20
8	他の人のことはかまわず、自分ひとりで勉強する	35	10	14	06	-08	17
55	勉強の計画は、おおよくだけを立てる	30	26	15	-04	-02	18
39	かならず勉強の計画を立てる	22	77	-04	13	15	69
46	立てた計画は、かならず守って、勉強する	26	60	0	18	21	51
20	勉強の計画は、表や図にかきあらわすようにする	16	60	-05	02	16	42
59	テストの時などに、勉強の計画を立てる	30	54	06	05	10	40
3	勉強の計画は、自分ひとりで立てる	34	50	11	08	10	40
43	好きな科目から、勉強する	-11	-06	73	13	30	66
30	好きなところ、とくいなところから勉強する	-08	-04	72	12	27	61
83	早く全体をつかむため、わからない所は後から勉強する	09	03	41	02	07	18
69	テストの間違いを直すより、次の勉強をする	-04	02	36	-11	-06	15
19	テストでは、その直前にまとめて勉強する	-06	-12	30	-21	-10	17
24	本(教科書や参考書)の内容は、まとめ直さないでそのままおぼえる	03	06	28	-10	-01	10
10	勉強は、やったその時間で区切りをつける	12	20	27	-03	08	14
78	音楽などはかけず集中して勉強する	28	15	-06	66	-01	54
72	静かに集中して、勉強する	46	18	01	53	-03	52
23	音楽などをかけながら、勉強する	-08	-01	-17	-69	11	54
14	友だちと競争して、勉強する	25	05	-07	-07	38	22
29	予習を中心に勉強する	17	17	02	13	37	21
52	友だちと共同して、勉強する	-03	0	05	-12	36	15
58	他の人をいつも意識して勉強する	19	14	0	-02	32	16
9	好きな先生の科目は、特にいっしょうけんめい勉強する	02	0	21	06	30	14
13	時と場合により、勉強の仕方をじゅうなんに変える	24	13	03	-03	27	15
	二 乗 和	8.50	2.65	2.12	1.75	1.67	

同因子への負荷量が高いものから順に並べ直してある。また、因子負荷量は100倍して丸め、小数点を除いて示した。なお、欠損値を含んだサンプルは分析から除外した。

(3) PLT尺度の構成

表1-4は、構成されたPLT各尺度の項目数、 α 係数、項目内容と、尺度に与えられた名前である。各尺度とも信頼性係数をひどく落とさない範囲で、奇数個の項目からなり、また命名が可能なように項目の選択を行った。その結果、 α 係数は.63~.82と、何れの尺度も一応内的な整合性を持つと認められた。

第I尺度は「わからない所はそのつど調べ確実に勉強する」「むずかしい問題は思い出して忘れないようにする」「気を散らさないように、おちついて勉強する」などの項目の負荷量が高く、「着実性」を示すものと考えた。第I尺度には項目が集中したため、その内容を検討したうえでさらに2分してIA・IBという2つの尺度として扱うことにした。このようにIA・IBという2つの尺度は、もともと1つであった因子を2分割したものであるから、「着実性」の中の「努力」と「手順」という2側面として命名された。この信頼性係数(α 係数)はそれぞれ.82と.75であった。第II尺度以下もそれぞれ同様に、適切だと考えられる名前がつけられた。それらを以下に順に示す。

第II尺度は「かならず勉強の計画を立てる」「立てた計画はかならず守って勉強する」などの項目の負荷量が高く、これを「計画性」の尺度と命名した。この尺度の信頼性係数は.81であった。

第III尺度は「好きな科目から勉強する」「好きなところ、とくいなところから勉強する」「早く全体をつかむため、分からないところは後から勉強する」などの項目で因子負荷

表1-4 尺度命名表

* 逆転項目

因子 尺度名	項目数 (α係数)	項 目
I A 着実性 (努力)	7項目 (.82)	27. わからない所は、そのつど調べ確実に勉強する 17. むずかしい問題は思い出して忘れないようにする 37. 問題のむずかしい時は、あきらめないでねばりつよく考える 26. たくさんの問題や例題をやり、十分になれる 82. 基本的な問題や事項を徹底的に理解する 4. テストの間違いは、きちんとあとで直しておく 15. ならったことは、すぐ使えるように暗記する
I B 着実性 (手順)	7項目 (.75)	64. 気を散らさないように、おちついて勉強する 54. 勉強は、やった内容 (進度) で区切りをつける 87. 大切な要点はノートにまとめる 79. 本の内容は、もう一度自分でまとめ直してからおぼえる 88. 定めた範囲をはじめから順に勉強する 5. 自分のペース (調子) で勉強する 1. 自分ひとりで勉強する
II 計画性	5項目 (.81)	39. かならず勉強の計画を立てる 46. 立てた計画は、かならず守って勉強する 20. 勉強の計画は、表や図に書き表すようにする 59. テストの時などに、勉強の計画を立てる 3. 勉強の計画は、自分ひとりで立てる
III 安易性	7項目 (.63)	43. 好きな科目から勉強する 30. 好きなところ、とくいなところから勉強する 83. 早く全体をつかむため、分からないところは後から勉強する 69. テストの間違いを直すより、次の勉強をする 19. テストでは、その直前にまとめて勉強する 24. 本 (教科書や参考書) の内容はまとめ直さないでそのままおぼえる 10. 勉強はやったその時間で区切りをつける
IV 集中性	3項目 (.76)	78. 音楽などはかけず、集中して勉強する 72. 静かに集中して勉強する 23* 音楽などをかけながら勉強する

表1-5 PLT各尺度間の相関関係

尺 度	IA	IB	II	III	IV
IA 着実性 (努力)					
IB 着実性 (手順)	.633 **				
II 計 画 性	.471 **	.511 **			
III 安 易 性	-.140 **	.012	.013		
IV 集 中 性	.353 **	.409 **	.309 **	-.100 **	

** p < .001

表1-6 各尺度の合成得点の平均およびSD ()内は項目数で除した場合の平均

尺 度	全 体		学 年			性 別	
	\bar{X}	SD	1	2	3	男	女
IA 着実性 (努力) (7項目)	19.67 (2.81)	3.97	21.13 (3.02) 3.70	18.82 (2.69) 3.97	18.89 (2.70) 3.78	19.89 (2.84) 3.95	19.43 (2.78) 3.97
IB 着実性 (手順) (7項目)	22.16 (3.17)	3.58	22.78 (3.25) 3.39	21.78 (3.11) 3.58	21.84 (3.12) 3.70	21.77 (3.11) 3.75	22.58 (3.23) 3.34
II 計 画 性 (5項目)	12.89 (2.58)	3.63	13.44 (2.69) 3.70	12.56 (2.51) 3.52	12.61 (2.52) 3.61	12.80 (2.56) 3.68	13.00 (2.60) 3.58
III 安 易 性 (7項目)	18.86 (2.69)	3.47	18.29 (2.61) 3.64	19.27 (2.75) 3.46	19.07 (2.72) 3.20	18.60 (2.66) 3.70	19.14 (2.73) 3.18
IV 集 中 性 (3項目)	8.53 (2.84)	2.44	9.06 (3.02) 2.45	8.16 (2.72) 2.39	8.31 (2.77) 2.40	8.66 (2.89) 2.52	8.40 (2.80) 2.35

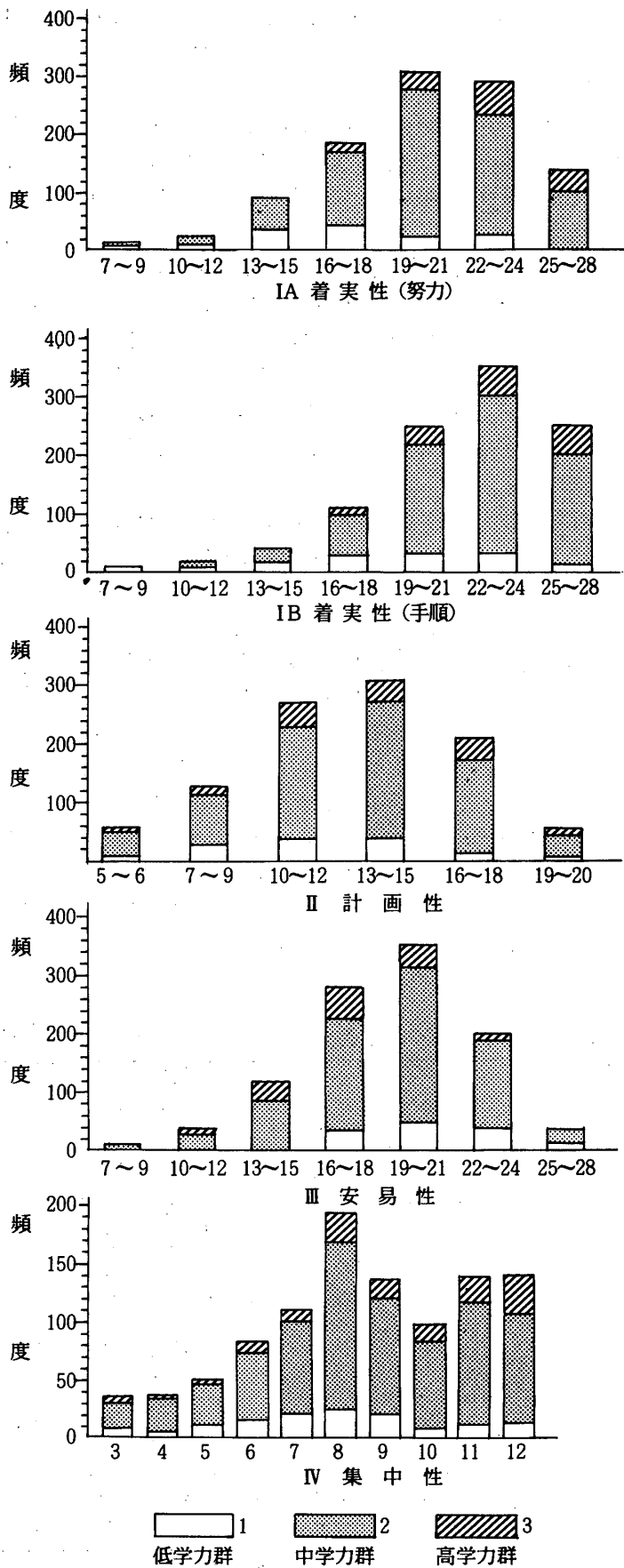


図1 PLT各尺度の度数分布図

が高く、「安易性」という命名をすることにした。この次元は、最も信頼性が低く、 α 係数は .63に留まっている。

第IV尺度への負荷量が高いのは、「音楽などはかけず、集中して勉強する」「静かに集中して勉強する」「音楽などをかけながら勉強する」の3項目であり、「集中性」の尺度と解釈できる。 α 係数は .76であった。

次にこれらの尺度間の相関を表1-5に示す。IAとIBとは $r = .633$ と高い相関関係にある。このことは、両者がもともと1因子からなっていたことから当然である。また、第III尺度は他の尺度との独立性が、相対的にやや高くなっている。しかもIA（着実性-努力）やIV（集中性）とは負相関となっており、他の尺度とはやや異質である。

表1-6は各尺度の合成得点の平均とSDを、学年別、性別にしめしている。項目の得点そのままでは、得点が高いほど否定的な答えとなってしまう。しかし、肯定的な答えほど得点が高くなるほうが、解釈しやすい。そこで、全項目をいったん逆転し、そのうえで逆転項目だけを再び逆転して加算した。なお、合成点の算出の際に欠損値には項目平均値を代入することにより補った。かっこ内に示したのは、各平均値を項目数で割ったものであり、1点から4点までの4点尺度であるから、2.5よりも大きい数値は肯定的な方向によった反応である。学年、性にかかわらず、どの尺度でも肯定的な反応の頻度が上回っていることがわかる。着実性（手順）・安易性で有意な性差がある（ $t = 3.63$, $df = 1023$, $p < .05$; $t =$

2.49, $df = 1023$, $p < .05$ ）。

(4) 各尺度の度数分布

図1は、PLT各尺度の度数分布を、参考のために学業成績の高低別に示している。低学力群とは、ここでは、5段階成績評定値の平均が2以下の生徒184名であり、高学力群とは、それが4以上の生徒190名である。

学業成績別の分布はともかく、着実性（努力）尺度、着実性（手順）尺度ともに、高得点に分布がかたよっている。計画性尺度、安易性尺度でも、やや偏りがみられるが、両着実性尺度ほどではない。集中性尺度では、他の尺度に比べて分布が一様となっている。

2. PLTのパターン分析

(1) 尺度2分割によるパターン分析の手続き

PLT各尺度の合成得点について、その可能得点範囲をもとに、得点を各尺度の midpoint において2分割し被験者のデータ・パターンを分析する。すなわち個々の尺度に

表2-1 パターン分析の2つのコードに含まれる合成得点の範囲と人数

尺度 (項目数)	No (人数)	Yes (人数)
IA 着実性 (努力) (7項目)	7~17 (283)	18~28 (742)
IB 着実性 (手順) (7項目)	7~17 (101)	18~28 (924)
II 計 画 性 (5項目)	5~12 (455)	13~20 (570)
III 安 易 性 (7項目)	7~17 (336)	18~28 (689)
IV 集 中 性 (3項目)	3~7 (321)	8~12 (704)

表2-2 2分割による各コードに含まれる人数およびその割合

尺 度	全 体		学 年						性 別			
			1		2		3		男		女	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)
着実性 (努力)	283 (27.6)	742 (72.4)	65 (17.6)	304 (82.4)	110 (32.6)	227 (67.4)	108 (33.9)	211 (66.1)	142 (26.4)	395 (73.6)	141 (28.9)	347 (71.1)
着実性 (手順)	101 (9.9)	924 (90.1)	27 (7.3)	342 (92.7)	42 (12.5)	295 (87.5)	32 (10.0)	287 (90.0)	62 (11.5)	475 (88.5)	39 (8.0)	449 (92.0)
計 画 性	455 (44.4)	570 (55.6)	142 (38.5)	227 (61.5)	160 (47.5)	177 (52.5)	153 (48.0)	166 (52.0)	255 (47.5)	282 (52.5)	200 (41.0)	288 (59.0)
安 易 性	336 (32.8)	689 (67.2)	146 (39.6)	223 (60.4)	96 (28.5)	241 (71.5)	94 (29.5)	225 (70.5)	198 (37.0)	339 (63.0)	138 (28.3)	350 (71.7)
集 中 性	321 (31.3)	704 (68.7)	87 (23.6)	282 (76.4)	116 (34.4)	221 (65.6)	118 (37.0)	201 (63.0)	168 (31.3)	369 (68.7)	153 (31.4)	335 (68.6)

表 2-3 P L T 2 分割による出現パターンの分布表

○ = Yes ● = No

尺 度					度 数 (%)	性 別		学 年		
IA	IB	II	III	IV		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
○	○	○	○	○	254 (24.8)	123 (22.9)	131 (26.8)	102 (27.6)	83 (24.6)	69 (21.6)
○	○	○	●	○	139 (13.6)	72 (13.4)	67 (13.7)	79 (21.4)	35 (10.4)	25 (7.8)
○	○	●	○	○	102 (10.0)	52 (9.7)	50 (10.2)	32 (8.7)	36 (10.7)	34 (10.7)
○	○	○	○	●	65 (6.3)	32 (6.0)	33 (6.8)	17 (4.6)	26 (7.7)	22 (6.9)
○	○	●	●	○	65 (6.3)	44 (8.2)	21 (4.3)	32 (8.7)	15 (4.5)	18 (5.6)
●	○	●	○	●	54 (5.3)	21 (3.9)	33 (6.8)	15 (4.1)	18 (5.3)	21 (6.6)
○	○	●	○	●	52 (5.1)	30 (5.6)	22 (4.5)	18 (4.9)	17 (5.0)	17 (5.3)
●	○	●	○	○	42 (4.1)	22 (4.1)	20 (4.1)	7 (1.9)	18 (5.3)	17 (5.3)
●	○	○	○	○	38 (3.7)	17 (3.2)	21 (4.3)	11 (3.0)	9 (2.7)	18 (5.6)
○	○	○	●	●	27 (2.6)	18 (3.4)	9 (1.8)	7 (1.9)	7 (2.1)	13 (4.1)
●	●	●	○	●	26 (2.5)	15 (2.8)	11 (2.3)	4 (1.1)	14 (4.2)	8 (2.5)
●	●	●	●	●	25 (2.4)	17 (3.2)	8 (1.6)	4 (1.1)	12 (3.4)	9 (2.8)
●	○	○	○	●	23 (2.2)	8 (1.5)	15 (3.1)	5 (1.4)	10 (3.0)	8 (2.5)
○	○	●	●	●	21 (2.0)	13 (2.4)	8 (1.6)	7 (1.9)	5 (1.5)	9 (2.8)
●	○	●	●	○	19 (1.9)	10 (1.8)	9 (1.8)	3 (.8)	11 (3.3)	5 (1.6)
●	●	●	○	○	16 (1.6)	9 (1.7)	7 (1.4)	5 (1.4)	6 (1.8)	5 (1.6)
●	○	●	●	●	10 (1.0)	7 (1.3)	3 (.6)	4 (1.1)	2 (.6)	4 (1.3)
●	●	●	●	○	9 (.9)	6 (1.1)	3 (.6)	2 (.5)	5 (1.5)	2 (.6)
●	○	○	●	○	9 (.9)	6 (1.1)	3 (.6)	3 (.8)	2 (.6)	4 (1.3)
○	●	●	○	●	7 (.7)	5 (.9)	2 (.4)	4 (1.1)	0	3 (.9)
●	●	○	○	○	5 (.5)	4 (.7)	1 (.2)	2 (.5)	0	3 (.9)
●	○	○	●	●	4 (.4)	0	4 (.8)	0	1 (.3)	3 (.9)
○	●	●	●	●	4 (.4)	2 (.4)	2 (.4)	2 (.5)	1 (.3)	1 (.3)
○	●	●	●	○	2 (.2)	2 (.4)	0	2 (.5)	0	0
●	●	○	○	●	2 (.2)	0	2 (.4)	0	2 (.6)	0
●	●	○	●	○	1 (.1)	0	1 (.2)	0	0	1 (.3)
○	●	●	○	○	1 (.1)	0	1 (.2)	1 (.3)	0	0
○	●	○	●	○	1 (.1)	1 (.2)	0	1 (.3)	0	0
○	●	○	○	●	1 (.1)	0	1 (.2)	0	1 (.3)	0
○	●	○	○	○	1 (.1)	1 (.2)	0	0	1 (.3)	0
計					1,025	537	488	369	337	319

順位 尺度	1		2		3		4		5	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
IA 着実性 (努力)	○		○		○		○		○	
IB 着実性 (手順)	○		○		○		○		○	
II 計 画 性	○		○		●	○	●	○	○	
III 安 易 性	○		●	○	○		●	○	○	
IV 集 中 性	○		○		○		○		●	○
頻 度 (%)	254 (24.8)		139 (13.6)		102 (10.0)		65 (6.3)		65 (6.3)	

図2 PLT高頻度パターン 全体 N=1025

つき、否定的な反応を示すか肯定的な反応を示すかにより大きく2分し、それらを5つの尺度全体に渡ってプロフィールとして調べる。具体的な合成得点の分割の得点範囲は表2-1のとおりである。以下、否定的なカテゴリーを“No”，肯定的なカテゴリーを“Yes”と示すことにする。

まず、2分割の結果“No”と“Yes”の各コードに含まれる人数を、表2-2に示す。全体でみると、肯定的な反応がどの尺度でも多い。特に着実性(手順)では9割の生徒がどちらかという肯定的なカテゴリーにはいる。着実性(努力)でも72.4%の生徒が“Yes”にはいる。もっともこれらの結果は、少なからず社会的な望ましさの効果を受けて偏っているものと、控えめにみるべきであろう。偏りの一番小さかった尺度は計画性であり、肯定的カテゴリーは55.6%にとどまる。

この結果を学年別にみると、1年生において肯定的な方向への偏りが、「安易性」を除いて大きい。性別には顕著な差はみられない。

(2) 性別, 学年別の全パターン

表2-3は、5尺度全体で見たときの、全データ・パターンを性別・学年別に示している。出現可能なパターンの総数は $2^5=32$ 個であるが、そのうち30パターンが現れた。上位10パターンで全体の81.8%を占めていることがわかる。性別には顕著な差異はみられない。一方学年別には、1年生の方が2・3年よりも典型的なパターンの出現率が高く、上位10パターンに86.8%が集中している。

(3) 高頻度パターン

図2はデータ・パターンを、その被験者全体での出現頻度の高いものから順に5パターン示している。○は“Yes”，●は“No”を意味する。すべて“Yes”のパターンが最も多く(順位1)、254名(24.8%)をしめる。これは、先の各尺度ごとの2分割による結果と全く一致している。次に多いパターン(順位2)は、「安易性」のみ“No”というパターンで、139名(13.6%)である。図2に示した5つのパターンで全体の61%をしめ

順位 尺度	1		2		3		4		5	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
IA 着実性 (努力)	●		●		○		○		●	
IB 着実性 (手順)	○		○		○		○		○	
II 計 画 性	○		○		○		○		○	
III 安 易 性	○		○		○		○		○	
IV 集 中 性	○		○		○		○		○	
頻 度 (%)	13 (13.0)		11 (11.0)		11 (11.0)		9 (9.0)		8 (8.0)	

図3-1 低学業成績群の高頻度パターン 全体 N=100

ている。

3. 学業成績別の分析

学業成績の高低とPLTとの関係を探ることが、本研究の主なねらいのひとつである。ここでは、特に学業成績の高い生徒、低い生徒について現れるパターンを比較する。

(1) 高学業成績群, 低学業成績群の設定

被験者全体のうち特に学業成績の高い1割の生徒, 低

い1割の生徒を選び, 比較する。学業成績の尺度としては, 5教科の5段階成績評定値合計を用いた。この合計値の上下からそれぞれ被験者総数(N=1025)の約1割(100名程度)になるように2群を選択することにし, 評定値合計が22以上あった106名(10.3%, $\bar{X}=2.26$, $SD=1.15$)が高学業成績群, 8以下だった生徒100名(9.8%, $\bar{X}=6.30$, $SD=1.14$)が低学業成績群として設定された。このことからわかるとおり, ここでの高学業成績群はオール5に近い極めて高い成績を示してい

表3 低学業成績群(N=100)と高学業成績群(N=106)の全出現パターン

尺度					低学業成績群 度数(%)	高学業成績群 度数(%)	尺度					低学業成績群 度数(%)	高学業成績群 度数(%)	
IA	IB	II	III	IV			IA	IB	II	III	IV			
●	○	●	○	●	13 (13.0)	2 (1.9)	○	○	●	○	●	2 (2.0)	5 (4.7)	
●	○	●	○	○	11 (11.0)	2 (1.9)	○	○	○	●	●	2 (2.0)	4 (3.8)	
○	○	○	○	○	11 (11.0)	20 (18.9)	●	●	○	○	○	1 (1.0)	0	
○	○	○	○	●	9 (9.0)	2 (1.9)	●	○	○	●	○	1 (1.0)	2 (1.9)	
●	●	●	○	●	8 (8.0)	0	○	●	○	○	○	1 (1.0)	0	
●	●	●	●	●	7 (7.0)	2 (1.9)	○	○	●	●	●	1 (1.0)	6 (5.7)	
●	●	●	●	○	5 (5.0)	0	○	○	●	●	○	0	16 (15.1)	
●	●	●	○	○	5 (5.0)	1 (0.9)	●	○	●	●	●	0	1 (0.9)	
●	○	○	○	○	5 (5.0)	1 (0.9)	●	○	○	●	●	0	1 (0.9)	
○	○	○	●	○	5 (5.0)	25 (23.6)	○	●	●	●	●	0	1 (0.9)	
●	○	○	○	●	4 (4.0)	1 (0.9)	計						100 (100.0)	106 (100.0)
○	○	●	○	○	3 (3.0)	9 (8.5)	○ = Yes ● = No							
●	●	○	○	●	2 (2.0)	0								
●	○	●	●	○	2 (2.0)	3 (2.8)								
○	●	●	○	●	2 (2.0)	2 (1.9)								

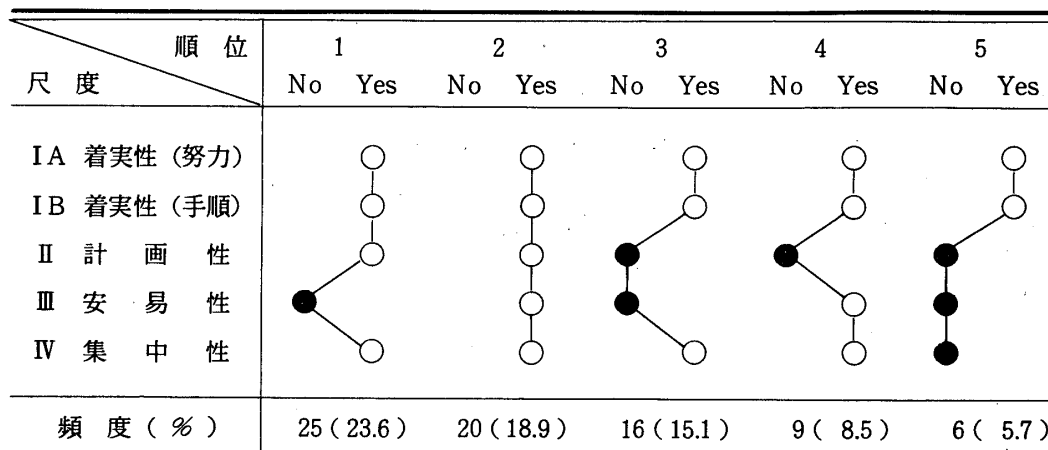


図3-2 高学業成績群の高頻度パターン

全体 N=106

る生徒であるし、逆に低学業成績群はオール1に近い極めて低い成績を示している生徒である。

(2) 低学業成績群、高学業成績群の全出現パターン

表3は、低学業成績群・高学業成績群のすべてのパターンを、表2-3と同様の要領で、低学業成績群の出現度数の順に並べて示したものである。両群のパターンの間にはかなりのひらきがあることがわかる。どちらの群にも共通して多く現れているパターンは、全部肯定のパターンだけである。

(3) 低学業成績群の高頻度パターン

図3-1は低学業成績群の高頻度パターン上位5つを示している。これら5パターンには52名(52%)が出現している。一番多いパターンは、13名で、着実性(努力)で否定、着実性(手順)で肯定、計画性で否定、安易性で肯定、集中性で否定、となっている。2番めに多いパターンは2つあり、共に出現度数は11(11%)である。1つは第1のパターンと集中性の点でのみ異なるもので、もう1つは全尺度で肯定のパターンである。5つのパターンすべてに一貫しているのは、安易性において肯定している点だけである。

(4) 高学業成績群の高頻度パターン

次に高学業成績群の高頻度パターン(図3-2)をみてみよう。これら5パターンで全体の71.8%を占めている。一番多いのは安易性を除く尺度すべてに肯定のパターンであり、25名(23.6%)が含まれる。2番目に多いのは全尺度で肯定のパターンであり、20名(18.9%)である。5つのパターンすべてに一貫しているのは、着実性(努力)と着実性(手順)をいずれも肯定していることである。

4. 動機づけ尺度得点別の分析

次に、本研究の中心の分析となる、学習への動機づけとPLTの5つの尺度に現れた中学生の学習の仕方のパターンとの関係を考察することにしよう。

(1) 動機づけ尺度の構成

生徒の普段の学習の動機づけに関する項目を25項目収集、作成し、それに「いつもしたい」、「ときどきしたい」、「あまりしたくない」、「まったくしたくない」の4段階

表4-1 動機づけ尺度25項目の因子分析表 (N=1,063)

	項目番号	項目	I	II	h ²
I	19	積極的に勉強する	73	-18	56
	7	一生けんめい勉強する	72	-13	54
	10	熱中して勉強する	71	-11	52
	15	努力して勉強する	71	-06	51
	21	おちついて勉強する	70	-14	52
	25	勉強では負けないように努力する	69	-01	48
	17	立てた目標をやりとげる	67	-16	48
	3	いわれなくても進んで勉強する	64	-18	44
	11	むずかしい問題にも挑戦する	62	-08	39
	22	勉強の心配や不安をのりこえる	60	-08	36
	20	勉強はおもしろいと思う	56	-14	33
	8	高い目標を立てて勉強する	51	-07	27
	5	分からなくてもあきらめない	51	-05	26
II	1	いい成績をめざして勉強する	51	02	26
	24	勉強を始めたらとちゅうでやめない	48	-02	23
	12	勉強では自信がある	46	-12	23
	9	いわれなければ勉強しない	-18	57	36
	14	勉強はすすんではしない	-02	56	31
	18	勉強では気がちりやすい	-14	53	30
	16	勉強では注意されても気にならない	-03	50	25
	6	勉強ではおちつかない	-12	49	25
	4	成績が悪くても気にならない	-07	46	22
	23	やむをえず勉強する	-19	44	23
残余	13	勉強には興味がわからない	14	36	15
	2	むずかしい問題よりもやさしい問題をする	-20	19	23
		二 乗 和	6.33	2.18	

(注) 因子負荷量は100倍して小数点を除いて示した。

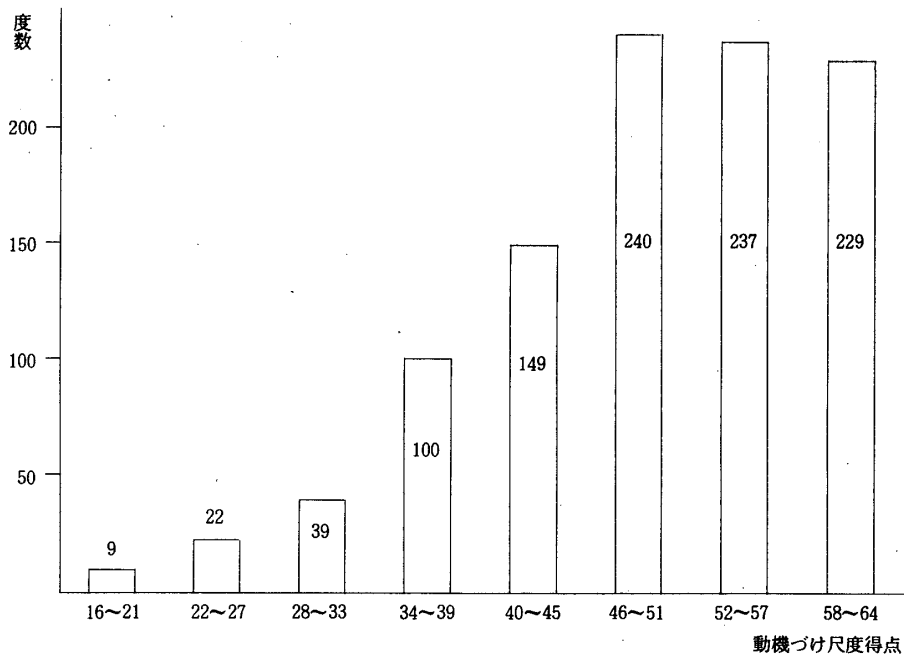


図 4-1 動機づけ尺度の度数分布 (N=1,025)

で評定させた。項目は「いい成績をめざして勉強する」、「積極的に勉強する」、「やむをえず勉強する」などのように、学習に対する動機づけのプラスの方向とマイナスの方向を含んだ質問項目からなる。

先に、本研究の被験者とは別の中学生 (N=1063) にこの質問項目について評定させ、その結果を因子分析した。主因子法バリマックス回転によって、2 因子を得た。表 4-1 にこの因子分析の結果を示した。第 I 因子は学習への積極的な姿勢・構えを示す因子で、16 項目、 α 係数は .908 であった。第 II 因子は 8 項目で、 α 係数は .691、残余項目は 1 項目となった。第 II 因子は学習への消極的な姿勢や集中力の欠如などを示唆するものと推定された。

そこで本研究では、 α 係数の高い第 I 因子の 16 項目を学習への動機づけを測定する尺度として、試みに採用し、中学生の学習の仕方、この研究では PLT との関係の分析を進めることにした。項目の内容をみるとわかる通り、この尺度は本来「学習動機づけ尺度」とか「勉強のやる気の尺度」とでも呼ぶべきものであるが、ここでは便宜上、単に「動機づけ尺度」と呼ぶことにする。図 4-1 はその分析を始めるに先立って、本研究で用いた中学生 (N=1,025) の得点分布を示したものである。学習への動機づけ得点は、16 項目の 4 段階評定であるから、最低点が 16 点、最高点が 64 点となる。なお、最高点に近くなればなる程、学習への動機づけが高まることを示す。1025 名の中学生の得点分布は、全体としては高得点の方

表 4-2 PLT 各尺度と学業成績、動機づけの偏相関 (N=956)

尺度・変数	学業成績	動機づけ
IA 着実性 (努力)	.277 ***	.486 ***
IB 着実性 (手順)	.121 ***	.435 ***
II 計 画 性	.004	.411 ***
III 安 易 性	-.209 ***	.033
IV 集 中 性	.025	.345 ***

*** $p < .001$

向へ歪んでいる。

(2) PLT と動機づけ尺度との偏相関

次にこの動機づけ得点と先の「個人レベルの学習論」の 5 つの尺度との関係を、偏相関係数を用いて見てみる。表 4-2 は PLT 各尺度と学業成績および動機づけとの偏相関係数を示している。左の列が、動機づけをコントロールした場合の学業成績と PLT 尺度との偏相関、右の列が、学業成績をコントロールした場合の動機づけと PLT との偏相関である。

動機づけ尺度と各々の PLT 尺度との偏相関をみると、第 III 因子を除いて 0.1% 水準で有意である。一方、学業成績のほうは、IA・IB・III の各尺度との偏相関が有意である。

このように、動機づけのほうが、PLT得点と概してより強い相関関係にあることがわかる。具体的には、やる気の強い生徒ほど着実性（努力）、着実性（手順）の得点が高く、また計画性や集中性が強い傾向を持つことになる。一方、学業成績とPLT尺度との相関は、本来は、現れて当然である。なぜなら、PLT尺度を構成する際に、学業成績と有意に相関する項目だけを用いて分析する手続きが用いられたからである。しかし、動機づけをコントロールした場合、学業成績と、着実性（努力）や着実性（手順）および安易性とは低いながら相関しているものの、計画性や集中性との相関関係はみられない。

(3) 低動機づけ群、高動機づけ群の設定

学業成績の場合と同様に、動機づけ尺度の得点の特に高い1割、低い1割ほどを選び出して比較する。低動機づけ群は最低点から37点までに入る124名（12.1%、 $\bar{X} = 31.06$, $SD = 5.54$ ）、高動機づけ群は最高点から60点までの間に入る133名（13.0%、 $\bar{X} = 61.35$, $SD = 1.23$ ）を選んだ。分布が偏っているために、両群のSDの差が大きくなっている。

(4) 低動機づけ群、高動機づけ群の全出現パターン

表4-3は、低動機づけ群、高動機づけ群の全出現パターンを低動機づけ群の頻度順に並べたものである。低動機づけ群では22個、高動機づけ群では15個のパターンが出現した。高い頻度を示すパターンは両群で異なり、対照的な様相をみせていると言えよう。

(5) 低動機づけ群の高頻度パターン

低動機づけ群の高頻度パターンを、図4-2に示す。図の見方の要領は先の図3-1・3-2と同様であり、○が肯定的なカテゴリー、●が否定的なカテゴリーを示している。一見して、全体的に●が多くなっていることがわかる。一番多く現れたパターンは、全尺度とも否定するもので、17名（13.7%）である。2番目は安易性だけを肯定するパターンであり、15名（12.1%）をしめる。以下、この図に示した5パターン全てを合わせると、66名（52.4%）で、これらに一貫しているのは、計画性が否定されている点のみであった。

(6) 高動機づけ群の高頻度パターン

次に、高動機づけ群の高頻度パターンを見てみよう。図4-3をみると、低動機づけ群の場合とは対照的に、○が非常に目立っている。一番多いパターンはちょうど低動機づけ群の場合とは正反対に、全尺度とも肯定するもので、45名（33.8%）がここに入ってしまう。2番目のパターンは、これもちょうど低動機づけ群の場合とは正反対で、安易性のみを否定する型になっている。上位5パターンには133名中111名（83.4%）が含まれてし

表4-3 低動機づけ群（N=124）と高動機づけ群（N=133）の全出現パターン

尺度					低動機づけ群 度数 (%)	高動機づけ群 度数 (%)
IA	IB	II	III	IV		
●	●	●	●	●	17 (13.7)	0
●	●	●	○	●	15 (12.1)	0
●	○	●	○	●	13 (10.5)	3 (2.3)
●	○	●	○	○	13 (10.5)	2 (1.5)
○	○	●	○	●	8 (6.5)	3 (2.3)
●	●	●	○	○	7 (5.6)	0
●	○	○	○	●	7 (5.6)	1 (0.8)
●	●	●	●	○	6 (4.8)	0
●	○	●	●	○	5 (4.0)	1 (0.8)
●	○	○	○	○	5 (4.0)	5 (3.8)
○	○	○	○	●	5 (4.0)	6 (4.5)
○	○	●	●	●	4 (3.2)	0
○	○	●	○	○	4 (3.2)	10 (7.5)
●	○	●	●	●	3 (2.4)	1 (0.8)
○	○	○	○	○	3 (2.4)	45 (33.8)
○	○	●	●	○	2 (1.6)	15 (11.3)
○	●	●	○	●	2 (1.6)	0
●	●	○	○	●	1 (0.8)	0
●	●	○	○	○	1 (0.8)	1 (0.8)
○	●	●	●	●	1 (0.8)	0
○	●	○	○	○	1 (0.8)	0
○	○	○	●	○	1 (0.8)	35 (26.3)
●	●	○	●	○	0	1 (0.8)
○	○	○	●	●	0	4 (3.0)
計					124 (100.0)	133 (100.0)

○ = Yes ● = No

まう。この割合は、先の低動機づけのパターンと比べると、非常に高いと言えるだろう。これら5パターン全てに共通しているのは、高学業成績群の場合と同じように、着実性（努力）と着実性（手順）を肯定していることである。

順位 尺度	1		2		3		4		5	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
IA 着実性 (努力)	●		●		●	○	●	○		○
IB 着実性 (手順)	●		●			○		○		○
II 計 画 性	●		●		●	○	●	○		○
III 安 易 性	●			○		○		○		○
IV 集 中 性	●		●		●			○	●	
頻 度 (%)	17 (13.7)		15 (12.1)		13 (10.5)		13 (10.5)		8 (6.5)	

図 4-2 低動機づけ群の高頻度パターン 全体 N = 124

順位 尺度	1		2		3		4		5	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
IA 着実性 (努力)		○		○		○		○		○
IB 着実性 (手順)		○		○		○		○		○
II 計 画 性		○		○	●	○	●	○		○
III 安 易 性		○	●		●			○		○
IV 集 中 性		○		○		○		○	●	
頻 度 (%)	45 (33.8)		35 (26.3)		15 (11.3)		10 (7.5)		6 (4.5)	

図 4-3 高動機づけ群の高頻度パターン 全体 N = 133

まとめ

これまで、中学生の学習の仕方、すなわち個人レベルの学習論を、先行研究とは別の型（片側）のPLT尺度をもとに、検討してきた。とりわけ、学業成績や動機づけの特に高い生徒や低い生徒は、どのようなPLTを持っているのかという疑問に答えたい。そこで、ここでは、本研究の結果を、以下の視点から順にまとめてみよう。

(1) 中学生のPLTプロフィールについて、(2)学業成績別にみたPLTの比較、(3)動機づけ別にみたPLTの比較、(4)片側のPLT尺度について。

1. 中学生のPLTプロフィール

まず、本研究で現われた、中学生のPLTプロフィールについてまとめておこう。因子分析の結果を基に、着実性（努力）、着実性（手順）、計画性、安易性、集中性というPLTの5尺度が構成された。これらの尺度を

それぞれ中央で2分割し、それぞれを肯定的な反応と否定的な反応とにわけたうえ、その被験者ごとのパターンを調べた。

(1) 平均的なパターン

最も多く現われたPLTのパターンは、5尺度すべてを肯定するものであり、全体の約4分の1を占めた。このことは、「着実に、集中的に、計画性をもって、自分の好きな科目から勉強する」仕方をするると答えた生徒がかなり多いことを意味する。尺度別には、着実性（手順）と着実性（努力）の偏りが特に著しい。しかし、この答えは多分にたてまえめであるようにみえる。盲従的な反応の偏りを割り引いて解釈の方がよいであろう。

なお、このようなたてまえめな偏りが出ること、片側尺度の欠点である。今後片側尺度の使用に際しては、一方の極に反応が集中しないように項目を作成すべきである。片側尺度の問題については、最後にあらためて考察する。

(2) その他のパターン

尺度が全体的にポジティブな方向に偏っているため、現れるパターンのバラエティーは乏しいと予想できる。実際、表2-3にみられる通り、上位のパターンに多くの生徒が集中している。しかし、それでも30個のパターンが出現し、最頻度パターンは全く逆のパターンを含めて、様々なものがみられた。ところで、パターン分析では、わずかな得点の差異で結果が大きく影響されやすいため、結果の表示について今後新たな方策を見出していきたい。

(3) 性差と学年差

本研究では男女間の差異はさほど顕著には現れなかった。梶田ら（1984）は、高校生のPLTについて、女子の方が男子よりも典型的なプロフィールの属性を相対的により強く持っていることを示したが、本研究の結果でははっきりした差異はみられない。ただし、個々の尺度でみると女子のほうが、着実性（手順）・安易性を肯定する率が有意に高いという差はある。

一方、学年間の差では、1年生が他の2学年と異なる得点分布を示している。表1-6や表2-2に戻ってみると、1年生は2・3年生よりも、「安易性」を除く4尺度の肯定率が高い傾向がある。1年生は3学年全体でみた場合の高頻度パターンのPLTに近く、バラエティーに乏しいのに対して、2・3年生は典型的な答えをしない人がより多い。

2. 学業成績別にみたPLTの比較

5教科の学業成績評点とPLT各尺度との、動機づけをコントロールした場合の偏相関を調べると、着実性（努力）・着実性（手順）で正、安易性で負の有意であった。計画性、集中性と学業成績とは無相関であった。また、全被験者の約1割の高い学業成績をおさめている生徒（高学業成績群）、低い学業成績をおさめている生徒（低学業成績群）を比較してパターンを調べると、両者の高頻度パターンには明らかな差がみられた。

このような学業成績別の結果は、常識的にみて理解しやすい面と、意外な面と両方を含んでいる。まず、比較的理解しやすいものからみていこう。

学業成績と「着実性」との相関が正となったことは、我々の常識と一致する。「わからない所は、そのつど調べ確実に勉強する」とか、「テストの間違いはきちんとあとで直しておく」、「気を散らさないように、おちついて勉強する」などの項目からは、真面目に机に向かって努力する生徒の姿が想像でき、我々は、そのような生徒はきっと学業成績が良いだろうと予想するからである。一方、安易性尺度には、「好きな科目から勉強する」、「本

の内容はまとめ直さないでそのままおぼえる」、「勉強はやったその時間で区切りをつける」などの項目が含まれ、この尺度の得点が高い生徒にはいわば、わがままな態度や楽をしようとする構えがあろう。そのような構えをここでは「安易性」と呼んだわけである。勉強には、やりたくはなくても、自分の本当にやりたいことを犠牲にしてもがまんしてやる、という性格が多分にある。だから、「安易性」は勉強で成果をおさめることとは相いれないと考える。本研究の結果はこの予想を支持するものである。

次に、我々の常識からするとやや意外な結果について考察しよう。まず「計画性」である。学業成績の良い生徒は計画性が高く、学業成績の低い生徒は計画性が無いだろう、と考えがちだが、実際には計画性と学業成績とは全く無相関であった。計画性は無くとも別に構わないということなのであろうか。勉強する生徒の中にはとにかくがむしゃらに勉強するタイプもいるであろう。そのような生徒は計画性があるとは言えない。それでも、良い学業成績を修めることができるであろう。また、これとは逆に、計画はたててもそれを守れずに計画倒れになったり、勉強する時間が限られていたり、進める手順が悪くて予定の通りにいかない生徒もあろう。だから、計画性と学業成績の高さとは直接には結びつかないのかもしれない。ただ、計画性と動機づけとの間に正相関があることは注目に値する事実である。

最後に「集中性」についてである。ここでの集中とは「音楽などはかけずに集中して勉強する」「静かに集中して勉強する」などの意味であり、「集中学習」というときのそれ（一つの学習内容を、分散してではなく、まとめて一度に学習する）とは必ずしも一致しない。気を散らさずに勉強のことだけに集中する、という意味であり、それは学業成績の良い生徒の特性のように思える。しかし、本研究の結果はそのような予想を支持しない。ちょうど計画性の場合と同様に、集中性は学業成績とは無関係であり、一方で動機づけとは有意に相関しているのである。音楽をかけながら勉強するなど、いわゆる「ながら勉強」は、常識的には能率の悪い方法であろう。そして、「ながら勉強」をするような生徒は、この集中性尺度では低い得点を取っているはずである。しかし、「ながら族」の学業成績が特に劣るという事実は無いいえる。確かに、BGMとして、また雑音を中和する目的で音楽を用いると、勉強に集中するために有効な場合がある。ある種の音楽は、精神の集中を妨げるどころか、むしろ助けるわけである。このように考えてくれば、生徒に「音楽を聞きながら勉強するな」と簡単には言えないようである。

ところで、宇田(1986)は、英語の学業成績と英語のPLT(集中性)との間に負の相関を得ている。しかし、その「集中性」は、集中・分散の意味のほうで、本稿における集中性とは意味が異なり、直接の比較はできない。とはいえ、例えば教科によってPLTと学業成績との関係についての結果が異なることも考えられ、今後さらに詳しい分析が必要であろう。

3. 動機づけ別にみたPLTの比較

次に、PLT各尺度と、学業成績をコントロールした場合の動機づけとの偏相関をみてみよう。結果を要約すれば、「安易性」尺度を除くすべての尺度と動機づけとは正相関がある。しかも、PLTと学業成績との相関よりも強い関係がある。言い換えればPLT尺度得点を予測する力は、学業成績よりも動機づけのほうが強いことがわかる。高動機づけ群、低動機づけ群のパターンを比べてみると、その高頻度パターンには顕著な違いがみられる。

まず、着実性(努力)・着実性(手順)はともに、動機づけと正相関している。「着実性」自体、学習のしかたであると同時に、動機づけの側面が強いから、当然の結果といえるだろう。例えば、「分からない所は、そのつど調べ確実に勉強する」とか「問題のむずかしい時は、あきらめないでねばり強く考える」などの項目は、明らかに動機づけの側面が極めて強い。

次に、計画性についても同様のことがいえよう。やる気がない生徒は勉強の計画などたてないであろう。計画をたてることも、それを実行することも、強い動機づけに支えられているものである。既に見たとおり、計画性がなくても学業成績が悪いとは限らないが、計画性がある生徒ほど勉強する動機づけが高いということはいえる。

また、「集中性」と動機づけの間にも正の相関がある。この結果は理解しやすい。既に述べた通り、ここでいう集中性とは他のことに構わずに勉強するという意味である。やる気があれば、ほかのことを忘れて勉強に集中することができるであろうし、逆にやる気が無いと、気が散ってしまって集中性を発揮できないであろう。いわゆる「ながら族」が必ずしも学業成績が劣らないことは既に述べたが、彼らの勉強に対する動機づけが一般に低いという事実は存在するといえる。

最後に、「安易性」と動機づけとが無相関という結果は、どう解釈すれば良いのだろうか。このことを考える前に、PLTの質問紙自体の特性について、やや一般的な考察をしておく必要がある。PLTの質問紙を実施する際に、「勉強を全然してない人はどう答えればいいのか」と尋ねられることがある。確かに、勉強をしな

い生徒に「どのような勉強のしかたをしますか」と問うこと自体、無理があると言ふべきであろう。現実には、そのような生徒は、どのような質問項目にたいしても、ネガティブな反応をせざるを得ない。「……な勉強をする」というような項目に対しては、勉強をしていない以上、はいと答えられないからである。このように、勉強をまったくしない生徒の場合にどう答えさせればいいのかという問題は今後の検討を要する課題といえる。

さて、「安易性」は他の尺度とは逆相関である。しかし、その項目は「好きなところからやる」とか「次の勉強をする」など、他の尺度と同様に、「勉強する」というポジティブな言葉を含んでいる。そこで、先に述べたような理由で、勉強をほとんどしないという生徒は、安易性尺度の得点も他の尺度の得点と同様に低くなる傾向があるだろう。この結果、本来はマイナスの相関を見せるはずの「安易性」と動機づけとの間の関係が薄められ、相関がみられなかったのではないだろうか。

4. 片側のPLT尺度について

最後に、本研究における分析の方法論的な問題について、とりわけ尺度の形式の問題を中心にまとめておく。ここで用いられた尺度は、先行のPLT研究で採用されたものとは、形式が異なっている。先行の梶田らの研究においては、「両側型」の尺度が採用された。例えば、A「自分ひとりで勉強する」— B「人についたり、学外の教室に通ったりして勉強する」などのように、対項目を用いてAかBかの判断を求めるものである。このやりかたでは、生徒の日常の学習行動を問う際に、より適切な判断状況を示すことができると考えたのである。しかし、両側型の尺度は、求める判断が複雑なこともあって、必ずしも高い信頼性を得られない傾向がみられた。

一方本研究では、「片側型」(項目が提示され、それに自分があてはまるか否かを尋ねる)の尺度を採用し、測定論的により精度の高い尺度構成をねらった。この結果、これらの尺度は先行のPLT研究(梶田・石田・宇田, 1984; 梶田・石田・伊藤, 1985他)において用いられた両側尺度と比べて、概してより高い信頼性を持つ尺度となっている。高い信頼性を持つことが測定上好ましい特性であることは、言うまでもない。

しかし、信頼性は確かに向上したとしても、ひとつの問題がのこる。両側型の尺度でみられたような生徒の日常の学習行動に合った形で項目を提示するということが、片側尺度で達成できたのかということである。言い換えれば、建前的な回答が多く、生徒の本音が現れていないのではないか。このおそれは、特に着実性尺度において顕著にみられた。度数分布図をみれば明らかなように、

極端に右のほうに寄った分布となっている。わからない所は、そのつど調べ確実に勉強しますか？……YES. 問題の難しい時はあきらめないでねばり強くよくかんがえますか？……YES. 気を散らさないように落ちついて勉強しますか？……YES. ……と、黙従的に答える傾向がみられるのである。

このように、現段階では、PLT測定の道具としては両側型の尺度も片側型の尺度も一長一短であり、どちらか一方が絶対的に優れているとはいえない。今後は、両者の特徴を生かし、研究目的に照らしながら選択するか、またはこれらを組み合わせて用いる必要がある。

文 献

- 梶田正巳 1986 授業を支える学習指導論—PLATT—金子書房
- 梶田正巳・石田勢津子・伊藤 篤 1985 「個人レベルの指導論 (Personal Teaching Theory)」—算数、数学における教師の指導行動の解析—名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科) 32, 121-172.
- 梶田正巳・石田勢津子・宇田 光 1984 「個人レベルの学習・指導論 (Personal Learning and Teaching Theory)」の探究—提案と適用研究—名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科) 31, 51-93.
- 宇田 光 1986 日米高校生の外国語学習の仕方—個人レベルの学習論 (PLT) の分析—名古屋大学教育学部, 帰国子女教育問題に関する総合的・実証的研究報告書 96-128.

(1986年7月31日 受稿)

ABSTRACT

PERSONAL LEARNING THEORY OF JUNIOR HIGH SCHOOL STUDENTS

Masami KAJITA, Setsuko ISHIDA, Hikaru UDA, & Atsushi ITO

Personal Learning Theory refers to the belief system each learner has toward his/her own learning activities. The major purpose of the present study exists in clarifying the characteristics of the PLT by administering a questionnaire to a thousand and twenty-six junior high school students. In addition, the relationships between the PLT sub scales and academic achievements of the students as well as between the PLT and their motivation for learning were investigated.

Although the PLT questionnaire had ninety items concerning to learning activities, only fifty-nine of those which had shown positive correlations with academic achievements were selected to be factor-analyzed.

The following five basic factors of PLT were found by employing the principal component factor analysis: the industriousness, the technical steadiness, the learning plan, the easiness, and the concentration. After the results were displayed using data pattern procedures, correlational analyses also played its part in describing the characteristics of PLT.

First of all, the authors applied the data pattern analysis, or the profile analysis, in order to make the results understandable. The typical pattern, found most frequently among the subjects, had been made up of positive responses to all the five PLT sub scales.

Secondly, partial correlation coefficients between the five sub scales of PLT and the academic achievements of subject matters were computed controlling a measure of Motivation for Learning, or MFL scale. The MFL scale consists of sixteen items asking students' motivation for learning. Significant positive correlations were found as to both the scales of the industriousness and the technical steadiness, while a negative correlation was detected as to the easiness scale.

Finally, as for the relationship between PLT and motivation, the authors examined partial correlation coefficients between the five sub scales of PLT and the MFL scale with the control variable of the academic achievement. Among the five PLT sub scales, four scales except for the easiness scale showed significant positive correlations with the MFL measure.

付録 1

勉強の仕方に関する調査 K 型

あなたは、ふだんどんな勉強（学習）の仕方をしていますか。日頃の勉強の仕方をふりかえて、以下にある質問に答えてください。この質問は、中学生にとってどんな勉強の仕方がよいのかを研究し、皆さんの勉強や先生の指導に役立てようとするものです。ぜひ、よく読んで、ありのままに答えてください。

名古屋大学教育学部教育心理学教室

学校名〔 〕 学年・組〔 年 組 〕
氏名〔 〕 番号〔 〕 性別〔 男 ・ 女 〕

記入の仕方

あなたの「ふだんの勉強（学習）の仕方」についてうかがいます。下には、左に勉強の仕方が書いてあります。あなたは、ふだんどのように勉強していますか。下の記入の仕方をよくみて、自分に最もあっている番号に○印をつけてください。

答え方	いつもしている …………… 1	の中から、もっともあっている番号の所に ○印をつけてください
	時々している …………… 2	
	ほとんどしていない …………… 3	
	まったくしていない …………… 4	

例 「朝起きるとラジオ体操をする」 1 — 2 — 3 — 4

勉強の仕方	しいていつも	し時々	しほとんど	しまいたく
1. 「自分ひとりで勉強する」	1	2	3	4
2. 「分からないところは、自分で最後まで調べる」	1	2	3	4
3. 「勉強の計画は、自分ひとりで立てる」	1	2	3	4
4. 「テストの間違ひは、きちんとあとで直しておく」	1	2	3	4
5. 「自分のペース（調子）で勉強する」	1	2	3	4
6. 「勉強は、きりがつくまで必ずする」	1	2	3	4
7. 「まとめて、一度に勉強する」	1	2	3	4
8. 「他の人のことはかまわず、自分ひとりで勉強する」	1	2	3	4
9. 「好きな先生の科目は、特にいっしょうけんめい勉強する」	1	2	3	4
10. 「勉強は、やったその時間で区切りをつける」	1	2	3	4
11. 「気ののった時に、いっきに勉強する」	1	2	3	4
12. 「勉強の計画は、できるだけこまかく立てる」	1	2	3	4
13. 「時と場合により、勉強の仕方をじゅうなんに変える」	1	2	3	4
14. 「友だちと競争して、勉強する」	1	2	3	4
15. 「ならったことは、すぐ使えるよう暗記する」	1	2	3	4
16. 「立てた計画にはこだわらず、勉強する」	1	2	3	4
17. 「むずかしい問題は思い出して忘れないようにする」	1	2	3	4
18. 「いつもさきの見通しをもって、勉強する」	1	2	3	4
19. 「テストでは、その直前にまとめて勉強する」	1	2	3	4
20. 「勉強の計画は、表や図に書き表すようにする」	1	2	3	4
21. 「分かっていることでも、まんべんなく反復練習する」	1	2	3	4
22. 「できなかったところはそのままにしておかない」	1	2	3	4

23. 「音楽などをかけながら、勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
24. 「本（教科書や参考書）の内容は、まとめ直さないでそのままおぼえる」	1	—	2	—	3	—	4
25. 「口でとなえたり、声にだしながら勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
26. 「たくさんの問題や例題をやり、十分になれる」	1	—	2	—	3	—	4
27. 「わからない所は、そのつど調べ確実に勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
28. 「予定通りできたかどうか、計画をいつもチェックする」	1	—	2	—	3	—	4
29. 「予習を中心に勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
30. 「好きなところ、とくいなところから勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
31. 「テストの問題として出そうな所を勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
32. 「勉強のあいまに気分転換の休みや活動をいれる」	1	—	2	—	3	—	4
33. 「書いたり、手を動かしたりして勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
34. 「もっとよい勉強の仕方はないかあれこれ考える」	1	—	2	—	3	—	4
35. 「場所にこだわらず、どこでも勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
36. 「分からないところ、重要なところから勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
37. 「問題のむずかしい時は、あきらめないでねばりづよく考える」	1	—	2	—	3	—	4
38. 「同じ科目を、長い時間つづけて勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
39. 「かならず勉強の計画を立てる」	1	—	2	—	3	—	4
40. 「勉強のあと、どこまで分かっているか、自分でテストをし、ためしてみる」	1	—	2	—	3	—	4
41. 「徹底的にこれとは決めた本（参考書や教科書）などを勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
42. 「特にテストのためだけの勉強はしない」	1	—	2	—	3	—	4
43. 「好きな科目から、勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
44. 「まず、実例や問題をとき、あとから一般的な公式にまとめておぼえる」	1	—	2	—	3	—	4
45. 「テストの問題として、どう出るかを考えながら勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
46. 「立てた計画は、かならず守って、勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
47. 「家庭教師についたり、塾に通ったりして勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
48. 「分からないところは、先生や友だちにたずねる」	1	—	2	—	3	—	4
49. 「特に分からないことを、重点的に勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
50. 「勉強の計画は、先生や友だちの意見を参考にして立てる」	1	—	2	—	3	—	4
51. 「計画にそって、一步一步勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
52. 「友だちと共同して、勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
53. 「先生の好き、きらいにかかわらず、どの科目も同じように勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
54. 「勉強は、やった内容（進度）で区切りをつける」	1	—	2	—	3	—	4
55. 「勉強の計画は、おおわくだけを立てる」	1	—	2	—	3	—	4
56. 「特に、テストのためだけの勉強をする」	1	—	2	—	3	—	4
57. 「これからの勉強の見通しより、いま必要な勉強をする」	1	—	2	—	3	—	4
58. 「他の人をいつも意識して勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
59. 「テストの時などに、勉強の計画を立てる」	1	—	2	—	3	—	4
60. 「計画の進みぐあいをチェックするより、これからの勉強について考える」	1	—	2	—	3	—	4
61. 「先生の指導や友だちのペース（調子）にあわせて勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
62. 「勉強の計画は書かず、頭の中だけに置いておく」	1	—	2	—	3	—	4
63. 「自分でテストをしてためすより、おぼえたり考えたりする」	1	—	2	—	3	—	4
64. 「気を散らさないように、おちついて勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
65. 「初めに一般的な公式を理解し、後から実例や問題にあたる」	1	—	2	—	3	—	4
66. 「テストの出題と関係なく、まんべんなく、全体を勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
67. 「嫌いな科目から、勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
68. 「勉強をはじめたら、つづけて集中的に行う」	1	—	2	—	3	—	4

中学生の学習の仕方：「個人レベルの学習論（PLT）」からの接近

69. 「テストの間違いを直すより、次の勉強をする」	1	—	2	—	3	—	4
70. 「勉強の進め方や仕方にはこだわらない」	1	—	2	—	3	—	4
71. 「いつも決めた場所で、勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
72. 「静かに集中して、勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
73. 「問題がむずかしい時は、ガイドやヒントや答えを見て、早く理解する」	1	—	2	—	3	—	4
74. 「同じ科目をつづけて勉強せず、分けて勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
75. 「いったん決めたら、その勉強の仕方をつづける」	1	—	2	—	3	—	4
76. 「復習を中心に勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
77. 「勉強の範囲ははじめから順に勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
78. 「音楽などはかけず集中して勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
79. 「本の内容は、もう一度自分でまとめ直してからおぼえる」	1	—	2	—	3	—	4
80. 「ふだんから計画的にテストの勉強をする」	1	—	2	—	3	—	4
81. 「すこしでも、毎日勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
82. 「基本的な問題や事項を徹底的に理解する」	1	—	2	—	3	—	4
83. 「早く全体をつかむため、分からないところは後から勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
84. 「はば広くいろいろな本や参考書を勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
85. 「テストに関係なく、自分の大切だと思うことを勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
86. 「いつも決まった時間に勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
87. 「大切な要点はノートにまとめる」	1	—	2	—	3	—	4
88. 「定めた範囲を初めから順に勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
89. 「教科書や参考書をそのまま使って勉強する」	1	—	2	—	3	—	4
90. 「決めた時間にこだわらず勉強する」	1	—	2	—	3	—	4

付録2

学習の動機づけ調査用紙

あなたは、日頃、どのように勉強したいと思っていますか。下には、26の文章があります。それぞれの項目について、あなたがふだん勉強したいと思っている程度を、下の答え方にならって示してください。学校の成績などには、まったく関係ありません。すなおにあなたの勉強にたいする気持ちを教えてください。あなたの気持ちに一番近い番号を○印でかこみなさい。

日頃の程度は

(答え方の例)

いつもしたい 1
時々したい 2
あまりしたくない 3
まったくしたくない 4

項目： 夜のNHKのニュースを見る

1 — 2 — 3 — 4

しい しい しい しい
たつ たつ たつ たつ
いも いも いも いも

項 目

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. いい成績をめざして勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 2. むずかしい問題よりやさしい問題をする。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 3. いわれなくても進んで勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 4. 成績が悪くても気にならない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 5. 分からなくてもあきらめない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 6. 勉強ではおちつかない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 7. 一生けんめい勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 8. 高い目標を立てて勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 9. いわれなければ勉強しない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 10. 熱中して勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 11. むずかしい問題にも挑戦する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 12. 勉強では自信がある。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 13. 勉強には興味がわかない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 14. 勉強はすすんではしない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 15. 努力して勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 16. 勉強では注意されても気にならない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 17. 立てた目標をやりとげる。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 18. 勉強では気がちやすい。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 19. 積極的に勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 20. 勉強はおもしろいと思う。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 21. おちついて勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 22. 勉強の心配や不安をのりこえる。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 23. やむをえず勉強する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 24. 勉強を始めたらとちゅうでやめない。 | 1 — 2 — 3 — 4 |
| 25. 勉強では負けないように努力する。 | 1 — 2 — 3 — 4 |